

10 収穫適期の判定

出穂期からの積算気温で判断

- ・ 収穫の目安は出穂からの積算気温で約950°C~1000°Cです。
- ・ 早期に倒伏した場合は、株ごと腐り、玄米品質は著しく低下します。健全なほ場と区分して、別に刈り取りを実施し、乾燥調製を行きましょう。
- ・ 直播ほ場は良く乾くので、収穫後は土づくりをし、次作に備えておきましょう。



水稲直播ほ場収穫後（乾きが早い！）



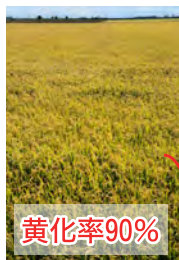
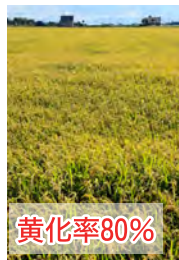
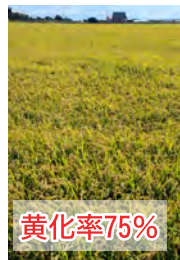
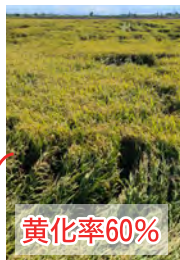
穂揃い良好。このようになるには、苗立ち確保が大切。



遅れ穂の発生が多い

苗立ちが悪い場合は、このようになる。追肥で穂数は確保できたが、穂揃いは悪い状態。

ほ場を見て判断



枝梗が青いので収穫はもう少し待ちます。

ほ場の状況をそれぞれ把握して刈取り順番の検討をしましょう。

上の写真では倒伏したところが後出来しており、青みが強く成熟に時間がかかっています。しかしながら、倒伏の状況によっては品質低下を招きますので、早めの刈取りも検討が必要となります。



刈って良い状態。穂先の枝梗が枯れてきました。

適期刈取り判定を活用

- ・移植栽培と同様に試し刈りを行い、玄米サンプルで未熟粒の割合を確認しましょう。生育が不ぞろいな場合は調査箇所を増やしましょう。
- ・大地の星・そらゆたかは整粒率90%、ほしまる・えみまるは85%、飼料米は100%で適期を判定しています。

<判定の一例>



判定後

